

温泉津伝建・西念寺

隣接するこれらの仏教寺院は、温泉津の町とその周りの茂みを隔てる険しい崖のすぐ下にあります。実際、西楽寺と恵琬寺はいずれも部分的に、この石垣の一部を取り除いて得られた土地に建立されました。この作業は、寺院の墓地を拡張するために行われました。阿弥陀如来（梵語でアミターバ）を本尊とする西楽寺は、恵琬寺よりも古い寺です。西楽寺は、もとは禅寺でしたが、1521年に浄土真宗の寺に改められました。現在の建物は1831年に建てられたものです。ここで、「聖域」という言葉には、宗教的な意味と文字通りの意味の両方があります。西楽寺は、伝統的にいわゆる無縁所（「無関係の場所」）であり、ある種の法や義務を免除され、保護を必要とする信者に対し聖域をもたらす寺であったのです。一方、恵琬寺は、日蓮宗の教えを守る寺であり、興味深い墓地があります。恵琬寺は、屋根が小さな瓦で葺かれ、壁のような構造になっているのが特徴で、17世紀後半から大阪と北海道を結ぶ日本海沿岸の航路をさかんに行き来し、海運業で生計を立てていた地元の人々の墓があります。左側の断崖沿いの墓石はさらに古いもので、江戸時代（1603年～1867年）初期に遡るものもあります。